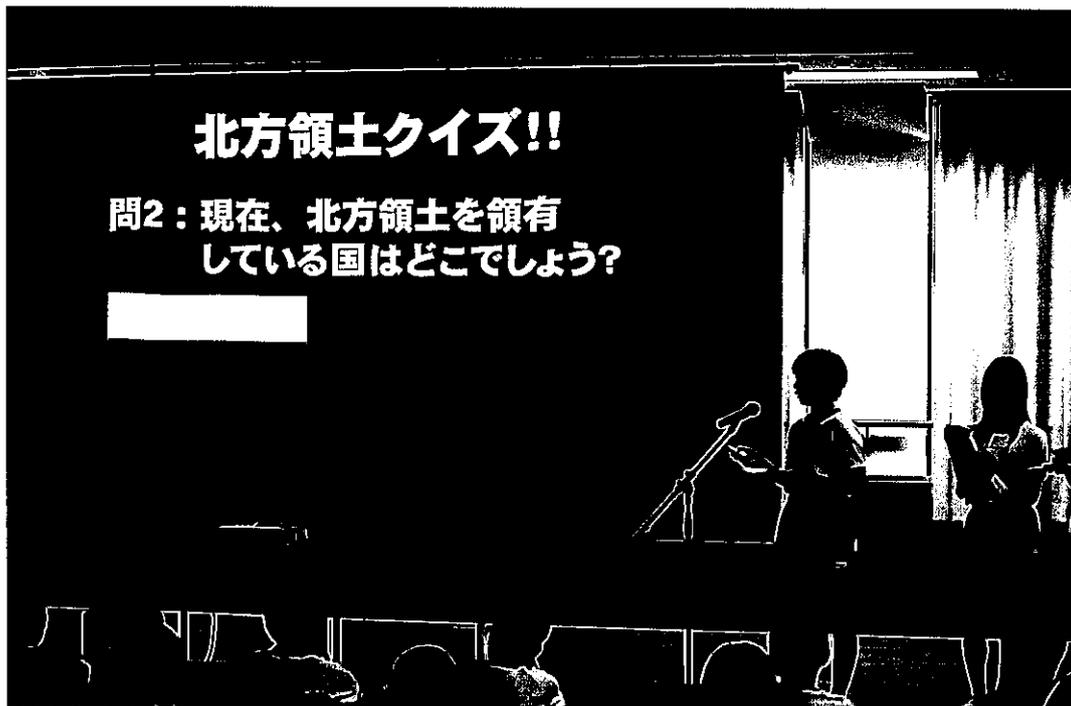


第 14 回
「北方領土と私たち」作文コンクール
入賞作文集



(北方領土青少年等現地視察事業の報告会 南丹市立園部中学校)

北方領土返還要求京都府民会議
京都府北方領土教育者会議

目 次

| | | | | | |
|---|-------------------|-----------------|-----|------|---|
| 1 | 発刊にあたって | | | | 1 |
| 2 | 実施要項 | | | | 2 |
| 3 | 入賞作文の選考について | | | | 3 |
| 4 | 入賞者一覧 | | | | 4 |
| 5 | 授賞式風景 | | | | 6 |
| 6 | 歴代最優秀賞受賞者一覧 | | | | 7 |
| 7 | 京都府北方領土教育者会議について | | | | 8 |
| 8 | 入賞作文 | | | | 9 |
| | ○最優秀賞 | | | | |
| | 京都府知事賞 | 南丹市立園部中学校 | 米 谷 | 力 ヤ | |
| | 京都市長賞 | 京都市立嵯峨中学校 | 鷓 飼 | 瑠璃子 | |
| | ○優秀賞 | | | | |
| | 京都府教育委員会教育長賞 | 南丹市立園部中学校 | 津 田 | 咲 登 | |
| | 京都市教育長賞 | 京都市立北野中学校 | 大 林 | 華 | |
| | 北方領土問題対策協会理事長賞 | 京都府立木津高等学校 | 中 嶋 | 実 菜 | |
| | 北方領土問題対策協会理事長賞 | 京都市立春日丘中学校 | 直 井 | 咲 良 | |
| | 北方領土返還要求京都府民会議会長賞 | 舞鶴市立城北中学校 | 高 尾 | 悠 冬 | |
| | 北方領土返還要求京都府民会議会長賞 | 京都市立桂川中学校 | 島 本 | 真 衣 | |
| | 京都新聞賞 | 京丹波町立和知中学校 | 向 仲 | 柚 季 | |
| | 京都新聞賞 | 京都市立嵯峨中学校 | 河 西 | 航 | |
| | KBS京都賞 | 京都府立洛北高等学校附属中学校 | | | |
| | | | 只 友 | 明 徳 | |
| | KBS京都賞 | 京都市立下京中学校 | 大 槻 | 莉 央 | |
| | ○佳 作 | 京都市立開晴小中学校 | 高 田 | 千 晴 | |
| | 佳 作 | 京都市立下京中学校 | 寺 田 | 透 子 | |
| | 佳 作 | 京都市立桂川中学校 | 村 上 | 透 愛 | |
| | 佳 作 | 京都市立嵯峨中学校 | 大 石 | 恵 蔵 | |
| | 佳 作 | 京都市立北野中学校 | 谷 口 | 陽 菜 | |
| | 佳 作 | 南丹市立殿田中学校 | 谷 尾 | 芳 子 | |
| | 佳 作 | 亀岡市立亀岡川東学園 | 川 勝 | 陽 葵 | |
| | 佳 作 | 京都府立洛北高等学校附属中学校 | | | |
| | | | 大 面 | 花 音 | |
| | 佳 作 | 京都府立須知高等学校 | 山 崎 | 美 緋歌 | |
| | 佳 作 | 宮津市立宮津中学校 | 八 木 | 遥 史 | |

発刊にあたって

「北方領土と私たち」作文コンクールも今回で十四回を迎えることができました。この間、多くの生徒の皆さんや先生方、また関係者の皆様に深いご理解と温かいご支援をいただきましたこと、心から厚くお礼申し上げます。

さて、昨年は北方領土の帰属等をめぐり、ロシアのプーチン大統領から「引き分け」というような発言がありました。共同経済活動や航空機による墓参など、日ロ両国の良好な関係づくりが進む中で、今後の動きが注目されます。きはならないようですが、今後の動きが注目されます。

また、この北方領土問題は国と国との問題ではありませんが、多くの生徒たちが作文でも述べているように、私たちが「国民一人一人の問題」「自分事」と捉えて、自分の考えをしっかりと持つことが問題解決の基盤となることは間違いないと思います。その意味でも、正しい知識と返還に対する強い意志を持つこと、そしてこの事を粘り強く周囲に広げていくことが、結果として、国民の世論を形成し、政府を後押しすることにつながるのではないのでしょうか。

そして、その事を力強く発信してくれるのが、次代を担う若者であり、この「北方領土と私たち」作文コンクールの各作品にこめられた生徒たちの熱い思いに、私たち大人も気持ちを新たにしていってあげていくべきだと考えます。

今回、京都府知事賞を受賞された米谷カヤさんは、ふるさととは単に生まれ育ったところということだけでなく、安心して家族が暮らせる場所、自分たちの居場所だとして、自分の体験からふるさとを感じられない苦しさ、悔しさ、悲しさを述べ、元島民の心に寄り添おうとしています。そして北方領土の帰属にとどまらず、人の心を大切にしたいという優しい気持ちが伝わる作文となっています。

また、昨年度に続いて京都市長賞を受賞された鵜飼瑠璃

子さんの作文では、旅行先の奄美大島で北方領土返還を訴える看板を目にし、お父さんとのやり取りを機に多くの元島民の方々の声を聴いて、北方領土問題への関心をさらに深めた様子が述べられています。また、自分自身が日ロの橋渡しになりたいという強い思いが私たちに伝わり、その熱意が頼もしく感じられます。

他にも、この冊子に掲載されているように、多くの中学生・高校生たちが社会情勢を見据えて前向きな主張をしており、その輪がさらに広がれば、これほど心強いことはありません。

ところで冒頭で述べましたように、この作文コンクールは第十四回を迎え、府内の各中学校、高等学校に一定認知されることにはなりましたが、若い世代の関心や理解を一層拡充するためには、府民会議と教育者会議の連携がより重要となってきます。関係の皆様には一層のご理解、ご支援をいただきますようよろしくお願い申し上げます。

結びにあたり、応募していただいた生徒の皆さんやご指導いただいた各校の先生方に感謝申し上げますとともに、ご後援いただきました京都府、京都市、京都府・京都市教育委員会、京都府・京都市中学校長会、京都府公立高等学校長会、京都市町村教育委員会連合会、京都府私立中等高等学校連合会、独立行政法人北方領土問題対策協会、京都新聞、産経新聞京都総局、KBS京都の皆様をはじめ、関係の皆様方に厚くお礼申し上げます、発刊の言葉とさせていただきます。

令和二年二月八日

北方領土返還要求京都府民会議
会長 田中英夫
京都府北方領土教育者会議
会長 小森 誠

令和元年度 第14回「北方領土と私たち」作文コンクール実施要項

- 1 趣 旨 京都の中学生や高校生が北方四島の現実を見据えて、北方四島が歴史的な経過や国際法に照らして日本の固有の領土であることを正しく理解し、北方領土問題に対する関心を高めることを目的としてこの事業を実施する。
- 2 主 催 北方領土返還要求京都府民会議 京都府北方領土教育者会議
- 3 後 援 京都府・京都市・京都府教育委員会・京都市教育委員会・京都府中学校長会・京都市中学校長会・京都府公立高等学校長会・京都府市町村教育委員会連合会・京都府私立中学高等学校連合会・(独立行政法人)北方領土問題対策協会・京都新聞・産経新聞京都総局・KBS京都
- 4 テーマ 「北方領土と私たち」にかかわる内容であること(題名は自由)
- 5 募 集 (1) 対 象 京都府内の中学校・高等学校に在学している者
(2) 募集締切 令和元年12月13日(金)
(3) 作品規定 原稿用紙(400字詰)3枚程度
(4) 応募先 京都府北方領土教育者会議事務局
〒629-1116 京都府船井郡京丹波町市場丸ヶ野4
京丹波町立和知中学校 野間宛
TEL 0771-84-1104
- 6 審 査 主催者において選定した審査員により審査
- 7 表 彰 (1) 賞の設定
最優秀賞 2点・京都府知事賞・京都市長賞 各1点
優 秀 賞 10点・京都府教育委員会教育長賞 1点
・京都市教育長賞 1点
・北方領土問題対策協会理事長賞 2点
・北方領土返還要求京都府民会議会長賞 2点
・京都新聞賞 2点
・KBS京都賞 2点
佳作・入選 若干点
(2) 表彰式
令和2年2月上旬
(北方領土返還要求京都府民大会会場にて表彰予定)
- 8 その他 ・応募の際は別紙の応募一覧表を添えて下さい。

| | |
|--------|--|
| 問い合わせ先 | 京都府北方領土教育者会議事務局 (京丹波町立和知中学校内 野間 慎吾) |
| | 0771-84-1104 |

入賞作文の選考について

1 応募の状況

| | |
|----------|--------------|
| 応募校： 21校 | 応募点数： 1,511点 |
|----------|--------------|

2 選考委員と選考基準

(1) 選考委員会の構成

| 氏名 | 役職・所属等 |
|-------|--|
| 小森 誠 | 京都府北方領土教育者会議会長 (京丹波町立和知中学校校長) |
| 宮田 功 | 京都府北方領土教育者会議副会長 (京都市教育委員会学校指導課首席指導主事) |
| 森 茂昭 | 京都市総合教育センター指導主事 |
| 石田 誠 | 京都市立北野中学校教諭 |
| 松島 功一 | 京都市立嵯峨中学校教諭 |
| 野間 慎吾 | 京都府北方領土教育者会議事務局長 (京丹波町立和知中学校教諭) |
| 平井 祐子 | 京都府北方領土教育者会議運営委員 (南丹市立園部中学校教頭) |
| 西田 三郎 | 京都府北方領土教育者会議顧問 (京丹波町教育委員会教育振興室長) |
| 島本 由紀 | 京都府北方領土教育者会議顧問 (京都市教育委員会学校指導課参与) |
| 松本 和久 | 北方領土返還要求京都府民会議幹事 |
| 野村 啓介 | 北方領土返還要求京都府民会議事務局長 |
| 松浦 快仁 | 北方領土返還要求京都府民会議事務局次長 |
| 土 渕 誠 | 北方領土返還要求京都府民会議事務局次長 |

(2) 選考基準

- ・北方領土について正しい認識や理解に基づき記述されているか。
(正しい認識・理解の視点)
- ・北方領土問題に関心を持ち、主体的な姿勢で学ぼうとしているか。
(主体的な態度・関心・意欲の視点)
- ・北方領土問題の解決に向けて自らができることを考え、取り組もうとしているか。
(将来への展望の視点)
- ・上記の視点を持ち、読み手に共感を与える内容であるか。
(啓発資料としての価値の視点)

3 選考の結果

- ・別紙の入賞者一覧のとおり

4 選考を終えて

- ・作文の内容をみると、社会科の授業をきっかけに、自分の体験やさらに深化させた学習内容をもとに、国民の関心を高め、交流を進めるために自分に何ができるか考え、さらに行動化につなげようとするものが多い。
- ・領土問題を考えることで、国際理解や人権問題への興味、家族や友だちとの関係作り、自尊感情の醸成など、これからの時代を生きる力の育成につながることを期待する。

第14回「北方領土と私たち」作文コンクール入賞者

応募校数：21校　応募作品数：1,511点

| 氏 名 | 学 校 名 | 学 年 |
|---------------------------------|-----------------|-----|
| 最 優 秀 賞（京都府知事賞） | | |
| 米 谷 カ ヤ | 南丹市立園部中学校 | 3 年 |
| 最 優 秀 賞（京都市長賞） | | |
| 鵜 飼 瑠 璃 子 | 京都市立嵯峨中学校 | 2 年 |
| 優 秀 賞（京都府教育委員会教育長賞） | | |
| 津 田 咲 登 | 南丹市立園部中学校 | 2 年 |
| 優 秀 賞（京都市教育長賞） | | |
| 大 林 華 | 京都市立北野中学校 | 3 年 |
| 優 秀 賞（北方領土問題対策協会理事長賞） | | |
| 中 嶋 実 菜 | 京都府立木津高等学校 | 2 年 |
| 優 秀 賞（北方領土問題対策協会理事長賞） | | |
| 直 井 咲 良 | 京都市立春日丘中学校 | 3 年 |
| 優 秀 賞（北方領土返還要求京都府民会議会長賞） | | |
| 高 尾 悠 冬 | 舞鶴市立城北中学校 | 3 年 |
| 優 秀 賞（北方領土返還要求京都府民会議会長賞） | | |
| 島 本 真 衣 | 京都市立桂川中学校 | 1 年 |
| 優 秀 賞（京都新聞賞） | | |
| 向 仲 柚 季 | 京丹波町立和知中学校 | 2 年 |
| 優 秀 賞（京都新聞賞） | | |
| 河 西 航 | 京都市立嵯峨中学校 | 2 年 |
| 優 秀 賞（KBS京都賞） | | |
| 只 友 明 徳 | 京都府立洛北高等学校附属中学校 | 2 年 |
| 優 秀 賞（KBS京都賞） | | |
| 大 槻 莉 央 | 京都市立下京中学校 | 2 年 |

※ 氏名等には常用漢字を使用しています。

第14回「北方領土と私たち」作文コンクール入賞者

| | 氏 名 | 学 校 名 | 学 年 |
|----------------------------|-------------|-----------------|-----|
| 佳 作 | 高 田 千 晴 | 京都市立開晴小中学校 | 7 年 |
| | 寺 田 透 子 | 京都市立下京中学校 | 2 年 |
| | 村 上 透 愛 | 京都市立桂川中学校 | 1 年 |
| | 大 石 恵 蔵 | 京都市立嵯峨中学校 | 2 年 |
| | 谷 口 陽 菜 | 京都市立北野中学校 | 3 年 |
| | 谷 尾 芳 子 | 南丹市立殿田中学校 | 2 年 |
| | 川 勝 陽 葵 | 亀岡市立亀岡川東学園 | 8 年 |
| | 大 面 花 音 | 京都府立洛北高等学校附属中学校 | 2 年 |
| | 山 崎 美 緋 歌 | 京都府立須知高等学校 | 1 年 |
| | 八 木 遥 史 | 宮津市立宮津中学校 | 2 年 |
| 入 選 | 下 世 古 慎 次 郎 | 京都市立東山泉小中学校 | 9 年 |
| | 藤 井 麗 子 | 京都市立烏丸中学校 | 1 年 |
| | 角 村 陽 菜 | 京都市立久世中学校 | 3 年 |
| | 河 西 葉 月 | 京都市立開晴小中学校 | 7 年 |
| | 石 井 迪 子 | 京都市立嵯峨中学校 | 3 年 |
| | 田 中 茉 優 | 綾部市立八田中学校 | 2 年 |
| | 杉 本 初 芽 | 与謝野町立加悦中学校 | 2 年 |
| | 石 田 明 梨 | 南丹市立美山中学校 | 3 年 |
| | 森 下 結 渚 | 亀岡市立亀岡川東学園 | 8 年 |
| | 片 山 かの夏 | 京丹波町立和知中学校 | 2 年 |

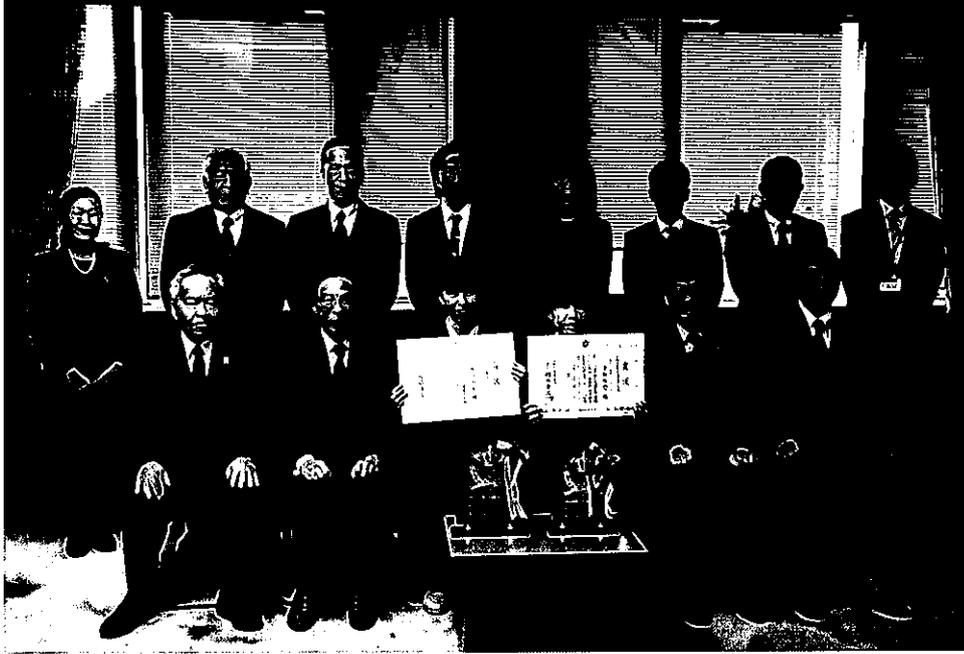
※ 氏名等には常用漢字を使用しています。

※ 京都市立開晴小中学校、亀岡市立亀岡川東学園、京都市立東山泉小中学校は9年制で表示しています。

最優秀賞などの授賞式

京都府知事賞・京都府教育委員会教育長賞の授賞式

令和2年1月29日 京都府庁



西脇隆俊京都府知事、橋本幸三京都府教育委員会教育長から賞状が授与されました。

京都市長賞・京都市教育長賞の授賞式

令和2年1月14日 京都市役所



門川大作京都市長、在田正秀京都市教育長から賞状が授与されました。

歴代最優秀賞受賞者一覧

第1回（平成18年度）～第14回（令和元年度）

| | 京都府知事賞 | 京都市長賞 |
|----|--|---|
| 1 | 長岡京市立長岡第二中学校 安川 愛佳 | 京都市立高雄中学校 寺島 千尋 |
| 2 | 京都府立洛北高等学校附属中学校 村上 花 | 京都市立堀川高等学校 藤田 紫徳 |
| 3 | 京都府立園部高等学校 大森 しおり | 京都市立松尾中学校 杉浦 由佳理 |
| 4 | 京都府立園部高等学校 奥村 麻衣 | 京都市立嵯峨中学校 木村 瑞季 |
| 5 | 亀岡市立東輝中学校 加藤 優生 | 京都市立嵯峨中学校 卯滝 由季 |
| 6 | 京都府立須知高等学校 星山 紗輝 | 京都市立伏見中学校 中西 ひなた |
| 7 | 宮津市立栗田中学校 池永 佳菜子 | 京都市立伏見中学校 大澤 未希 |
| 8 | 大山崎町立大山崎中学校 浅野 陽香 | 京都市立伏見中学校 岡嶋 良太郎 ※全国スピーチコンテスト：奨励賞 |
| 9 | 京都府立鴨沂高等学校 石田 裕貴 ※全国スピーチコンテスト： 北対協理事長賞 花阪 大輝 京都府立園部高等学校附属中学校 | 京都市立嵯峨中学校 田中 亜門 |
| 10 | 京都府立園部高等学校附属中学校 十倉 希望 | 京都市立嵯峨中学校 児玉 宜伸 |
| 11 | 南丹市立園部中学校 高屋 瞳華 ※全国スピーチコンテスト： 審査員特別賞 | 京都市立嵯峨中学校 児玉 宜伸 |
| 12 | 南丹市立園部中学校 藤内 空菜 ※全国スピーチコンテスト：奨励賞 | 京都市立嵯峨中学校 宇佐美 智也 |
| 13 | 南丹市立園部中学校 日下部 理子 | 京都市立嵯峨中学校 鵜飼 瑠璃子 |
| 14 | 南丹市立園部中学校 米谷 カヤ | 京都市立嵯峨中学校 鵜飼 瑠璃子 |

(応募作品数・応募校数)

| | | | | | |
|---|-------|-----|----|-------|-----|
| 1 | 404点 | 20校 | 8 | 1740点 | 18校 |
| 2 | 895点 | 25校 | 9 | 1545点 | 18校 |
| 3 | 1938点 | 33校 | 10 | 1471点 | 22校 |
| 4 | 1304点 | 20校 | 11 | 1302点 | 18校 |
| 5 | 1979点 | 24校 | 12 | 1448点 | 24校 |
| 6 | 1481点 | 15校 | 13 | 1591点 | 21校 |
| 7 | 1430点 | 18校 | 14 | 1511点 | 21校 |

京都府北方領土教育者会議について

- 1 設 立 平成18年 3月
- 2 設立趣旨 北方領土問題の解決のために次代を担う青少年が北方領土について関心を持ち、正しい理解を深めるために教育関係者の会を結成して諸活動を行う。
- 3 会 員 京都府内の中学校・高等学校教員等
- 4 主な取組
 - 「北方領土と私たち」作文コンクールの実施（平成18年度～）
 - ・第14回コンクールを実施（応募校21校、応募数1,511点）
 - 実践推進指定校事業の実施
 - ・2校（活動支援経費1校10万円、研究授業の公開、作文コンクールへの参加）
 - 各種研修会への教員・生徒の派遣
 - ・四島交流事業（国後島、色丹島、択捉島）
 - ・現地視察研修会（根室市域）
 - ・近畿ブロック研修会（近畿各府県）
 - 「北方領土全国スピーチコンテスト」への参加
 - その他、北方領土教育に関する事業の実施・連絡調整 等
- 5 組織体制

会長（1） 副会長（1） 事務局長（1） 事務局次長（1） 運営委員（若干名）

●各種研修会等への参加状況について （参加者実績：教員＋生徒）

| 年度 | 北方四島交流 | 教育指導者研修 （根室市） | 視察研修 （根室地域） | 近畿ブロック研修会 （6府県） | 備 考 |
|----|-----------|------------------|----------------|--------------------|-----|
| 24 | 国後 3 | 2 | | 17（滋賀） | |
| 25 | | 2 | 28 | 43（京都） | |
| 26 | | 2 | | 22（大阪） | |
| 27 | 国後 2、択捉 1 | 2 | 20 | 18（兵庫） | |
| 28 | | 2 | | 9（奈良） | |
| 29 | | 2 | | 18（和歌山） | |
| 30 | 択捉 1 | 2 | 20 | 14（滋賀） | |
| 元 | | 2 | | 48（京都） | |

● 実践推進指定校について

| 年 度 | 19 | 20 | 21 | 22 | 23 | 24 | 25 |
|-----|-----|-----|------|-----|-----|------|-----|
| 京都府 | 園部高 | 園部高 | 園部高 | 東輝中 | 東輝中 | 日置中 | 南桑中 |
| 京都市 | 八条中 | 伏見中 | 大枝中 | 山科中 | 嵯峨中 | 西賀茂中 | 烏丸中 |
| 年 度 | 26 | 27 | 28 | 29 | 30 | 元 | |
| 京都府 | 城北中 | 和知中 | 蒲生野中 | 園部中 | 殿田中 | 川東学園 | |
| 京都市 | 中京中 | 上京中 | 梅津中 | 北野中 | 桂川中 | 双ヶ丘中 | |

入賞作文

最優秀賞（京都府知事賞）

ふるさと北方領土

南丹市立園部中学校
三年 米谷 カヤ

みなさんが思い浮かべるふるさととは何ですか。「生まれ場所」「住んでいる所」と答える人が多いのではないのでしょうか。でも、ふるさととは決してそんな単純なものではありません。

私は以前、沖縄に住んでいました。沖縄に住んでいた最初の頃は、「外から来た人」「ハーフ」「自分たちと一緒にじゃない」そんな理由で、学校でみんなが仲間に入れてくれないことがありました。自分は外の人だから、みんなと馴染むことがあまりできませんでした。そんな時、私はとても自分が恥ずかしくなっていました。そんな私が、沖縄を自分のふるさとと呼べるようになったのは、「みんなが受け入れてくれた」「自分の居場所がある」と感じてからです。

ふるさととは、単に生まれ育った場所ではなく、心の底から自分の居場所があると思える所、何があっても安心して帰ってこられる場所だと私は思います。でも、そんな大切なふるさとを奪われた人々や歴史が北方領土にはあります。

かつて、北方領土にはアイヌの人々が暮らしていました。彼らは厳しい自然環境の中、その自然と共存しながら独自の文化を発達させていました。しかし、本州から移住してきた和人に搾取され、文化を否定されました。また、第二次世界大戦が終わった後、北方領土で暮らしていた人々は、まさに全てを奪われました。突然、生活の場に踏み込んできたソ連兵によって、大切なものを奪われ、更に住んでいた土地から追い出さ

れたのです。もうこの状態が七十年以上も続いています。他者からの圧迫により、安心して暮らせる場所を失ってしまった人々はどんな思いだったのでしょうか。「奪われてしまった人々に、ふるさとを返す。」傷ついた人々の心を癒やすのは、この方法しかないと思います。かといって今島に住んでいるロシアの人々を追いや出してしまったら、アイヌの人々や元島民がされたのと同じことを、その人々に繰り返してしまいます。だから、取り上げたり、追い出すのではなく、むしろ「開く」ことが必要だと私は考えています。

かつて、私は沖縄で「受け入れてもらえていない」と感じる悲しさを経験しました。これまでの自分を全否定されているように感じました。それらを克服できたのは「自分の違いを恥ずかしながら堂々と見せられた」からだだと思います。そして、それを周囲の仲間は認めてくれたのです。自分を開いていくのは、とても勇気のいることです。そして、違いを認めていくことも同じぐらい勇気が必要です。しかし、お互いその壁を乗り越え、認め合うための第一歩を踏み出す。そうすれば北方領土は、アイヌの人々も日本人も、ロシア人も共に暮らせる環境に変わります。誰のふるさとでも奪わずにすむようになるのではないのでしょうか。互いの文化を学び合うことで、もっと幅広い視点を持つ人が増えるのではないのでしょうか。そんな誰にとっても安心な場所に北方領土がならないかと思えます。

私は、これから他の人の意見を尊重し、周りの目に流されることなく自分を開き、正しいと思うことを発信していきたいです。そして、北方領土をふるさととする人たちがみんなが「ここが私たちのふるさと」だと心から思える地になるまで、この問題について考え、行動していきます。

最優秀賞（京都市長賞）

島民の叫び

京都市立嵯峨中学校
二年 鶴飼 瑠璃子

今年の春、家族旅行で奄美大島に行ったときのことだった。私たちはソテツ生い茂る海岸沿いを車で走っていた。すると、「北方領土返還 国民の願い」という看板が目に見え飛び込んできた。

私は北海道に行ったことがある。そのときには、このような看板はあちらこちらにあった。しかし、北海道から二千五百km以上離れている奄美大島に、なぜ北方領土返還を訴える看板があるのだろうか。私は父に聞いてみた。

「沖縄や奄美大島は米国に統治され、苦勞の末に返還された。当時、日本は米国と敵対するソ連に占領された北方領土の交渉どころではなかった。先に返還された奄美の人が北方領土の元島民に思いを寄せて看板を立てたのかもしれない。」などと話してくれた。

北方領土とは、過去一度も外国の領土になったことがない「日本固有の領土」だ。しかし、第二次世界大戦で日本が降伏した後、ソ連軍が北方領土に上陸し、占領した。四島に住んでいた住民は収容されたり、島から脱出したりした。戦後七十四年が経った今でも、まだ不法占拠が続いている。

奄美から戻ってきた私は元島民の方の声を聞きたくなり、北方領土問題対策協会のホームページにアクセスしてみた。すると元島民のインタビュー動画が四人分あった。私は、全ての動画を見た。そこでは元

島民の声が、「証言」として記録されていた。彼らは戦争時の貧しい暮らしや島から脱出したときの様子を語っていた。

終戦時十五歳だった国後島出身の佐藤信子さんは、「もし返還されても、もう高齢だから戻れない。」と語った。当時十六歳だった択捉島出身の宮下健四郎さんは、「四島を一括して返還されなければ平和条約を結ぶ必要はないと思う。」と話していた。元島民たちの声を聞き、私は、「島から脱出した人はどれほど怖かったことか。」「島に残った人もソ連兵に何をされるか分からず、不安な日々を送っただろう。」などと考えた。

多くの元島民は、自分たちが元気なうちに日本に返してほしいと願っている。元島民の方の平均年齢は八十四歳を超えた。私は戦争が終わって七十四年も経つが、返還交渉があまり進んでいないことにもどかしさを感じる。

一方で、日本人とロシア人が北方領土で仲良く暮らせる方法はないのかとも思う。

仮に領土問題が解決したら、ロシア人島民はどうなるのだろうか。領土返還を日本人が願うことも大切だが、両国の人々が共生できるしくみを考えることも政治の役割だろう。

先日のニュースで北方領土へは、今年から一般人も旅行ができるようになったと報道していた。私もいつか実際に現地に行き、ロシア人と対話をして、日露の友好の橋渡しをしたいと強く思った。

優秀賞（京都市教育長賞）

「返還」と「引き渡し」

京都市立北野中学校
三年 大林 華

一つの出来事が起こったとき、それは様々な言葉によって言い表される。置かれた立場によって、一つの出来事は異なる言葉で語られる。たとえ似た言葉であっても、その言葉の意味は異なる。そういった食い違いは国際関係においても存在する。

北方領土問題、ここにも言葉の食い違いがある。日本人は長年、北方領土の「返還」を訴えてきた。これに対して、北方領土を有効支配しているロシアは、北方領土の「引き渡し」を考えているという。一見すると似た意味をもつように思えるが、お互いの国の北方領土に対する見解を表明するもので、これらは違う言葉である。

日本は北方領土を日本固有の地として、少しでも早い「返還」を求めている。一方、ロシアは五十六年宣言に記されるように、「引き渡し」に関しての問題であると捉えているのだ。お互いに立場によって北方領土の姿が違うのは当然だが、今の状態のように目指す方向性が違うことは問題だ。日本の言う「返還」には主権を含んでいるのに対し、ロシア側は、「五十六年宣言には、どちらの主権になるかは明記されていない」と主張している。ロシアには戦争で勝利したことによる正当な領土であり、日本に「返す」というより、「渡す」という認識があるようだ。結果として、北方領土問題における「返還」と「引き渡し」という言葉は、日露

にとつては対義語のような意味をもつようになってしまった。これでは、いつまで経っても問題解決には至らないと思う。

それに加え、現在の日本は二島返還も視野に入れるようになってきている。だが、果たしてそれでいいのだろうか。二島が返ってくることは、そこに住んでいた元島民にとつて、喜ばしいことではあるが、返ってこなかった島に住んでいた元島民は、もっと苦しい思いをすることになるだろう。二島返還で話がまとまってしまえば、ロシアは、北方領土問題は解決済みだと考えるだろう。これでは返還されなかった二島が戻ってくることは、今以上に厳しいものとなってしまふ。さらに、北方領土問題の解決を二島返還で終えることは、日本のイメージを大きく変え、日本は国際社会から法と正義を「あきらめてしまふ国」だと思われてしまふ。竹島や尖閣諸島をはじめとする主権や領土に関する問題に与える影響は計り知れない。

こうした北方領土問題の現状を知らない人は、四十歳未満では四割を超えている。これこそが、北方領土問題の解決を遅らせている最大の理由だ。返還を求めない。だから、私たちが、知らないようでは話にならない。だから、私たちが、まずやらなければならぬことは、北方領土問題に関心をもつことなのだ。これで、やっとスタートラインに立つことができる。

折しも、ローマ教皇が三十八年ぶりに日本を訪れた。ローマ教皇の語る言葉の中に「無関心はいけない。」というのを聞き、私はハッとされた。知らないままで放置することは、間違ったことだと気づいた。北方領土問題は遠い場所の問題ではなく、私たち自身の問題である。

また、中国政府への抗議活動が続く香港では、四年

に一度の区議会選挙が行われ、投票には長い列ができた。その結果、民主派が中国返還後で初めて過半数の議席を獲得した。このような香港住民の自らの社会に対する熱い思いや関心の高まりに、私は圧倒された。ここには、香港住民のこのままではいけない、どうにかしなければならぬという熱い思いと行動がある。

北方領土問題には、互いの解釈の違いなど、解決に至らない多くの課題はある。だからこそ無関心を止め、私たちはスタートラインに立ち、行動することを選びたい。そして、日本国民には、あきらめない心を持ち続けることが大切だと考えている。

優秀賞（北方領土問題対策協会理事長賞）

北方領土問題について考える

京都府立木津高等学校
二年 中嶋 実菜

日本とロシアが主張する国境にはズレがある。日本とロシアの間には長年解決に至っていない北方領土問題があるからだ。何十年にもわたって解決策が提示されていないにも関わらず、なぜ解決に至らないのか、私なりに考えてみた。

まず両国の主張を歴史的観点から比較してみる。日本の主張としては江戸時代末期に結んだ日魯通交条約の中で齒舞、色丹、国後、択捉の四島が日本の領土であることをロシアも承認していること、樺太千島交換条約から見ても四島が日本の領土として承認されていたのは確かだということ、サンフランシスコ平和条約によって日本の領土が決定されたが、その条約にはソ連が不参加であるということなどがあげられる。

これらに対してロシアの主張は、四島は第二次世界大戦の結果としてロシアが獲得したものであるというものだ。しかし私はこの主張に違和感を覚えた。なぜならこの主張は第二次世界大戦後の世界平和回復のための基本原則を定めた大西洋憲章に矛盾するものだからだ。ロシアの主張は筋の通らないのだと感じた。

次にロシアが北方領土返還を拒む理由を考えてみる。その一つとして、日米安全保障条約が関係するだろう。アメリカとの関係が良好でないロシアにとって、返還後の北方領土に米軍基地が建設される可能性があることは危惧すべき問題である。もう一つはプーチン大統領の支

持率が関係するかもしれない。資源大国であるロシアの収益は石油や天然ガスによるものが大半で、プーチン大統領の支持率もそれらの収益が基盤の一つであった。しかし近年、技術の発達によるシェールガス革命の影響でロシア経済は不安定になり、それに伴ってプーチン大統領の支持率も揺らぎ始めたのだ。低下した支持率を取り戻すためにも、北方領土返還を受け入れることはできないのだろう。

様々な問題が北方領土問題の解決に至るまでの障害になることは理解できたが、現状のままではいけないことも事実だ。

北方領土問題を少しでも先に進めるために私は提案したい。まず話し合う相手はアメリカであるということ。なぜなら返還後の領土に米軍基地を建設しないことに合意してもらい必要があると考えるからだ。さらには日本に領土を返還するということは、ロシアの弱さを示すものではなく、歴史的事実に基づいた英断であることを強調し、ロシア国民の同意と他国からの賛同を得るべきであるということだ。

この提案はあくまでも世界の政治に関して無知な一人の高校生の意見であり、実際に問題を解決するためには浅はかすぎる考えかもしれない。しかし日本国民の一人ひとりが当事者意識を持ち、関心の目を向けることもまた様々な問題を解決する上で絶対必要なことであると私は考える。

あの日の会話から

京都市立春日丘中学校
三年 直井 咲良

「戦争でこの島を取り返すのは賛成ですか、反対ですか。」「戦争で。」「ロシアが混乱している時に取り返すのはオーケーですか。」「戦争なんて言葉使いたくないです。使いたくない。」「でも、取り返せないですよ。」「いや、戦争はすべきでない。」「戦争しないとういようにもならないですか。」「こんな会話がテレビを見ていた私の耳に飛び込んできた。」

これは、北方四島ビザ無し交流の訪問団の一員として、北方領土を訪れた日本維新の会の丸山穂高衆議院議員と元北方領土の島民であった団長の会話である。この会話を聞いてから、北方領土問題は北海道の人や北方領土に住んでいた人たちだけの問題ではなく、私たち国民の問題という事に気付かされた。それに気づいた私はまず、北方領土問題について知るために、インターネットで調べてみることにした。すると、北方領土問題は第二次世界大戦をきっかけにロシアに日本の領土を法的根拠無しに占拠されているという情報を得ることができた。戦争が終わって、七十年以上経っているのに、北方領土は返ってこない。美しい海と緑の自然に囲まれて生活していた日本人の姿を想像すると、胸の奥底から何かが入り込んでくるような気がして、仕方がなかった。もし、私が北方領土に住んでいた島民で、突然ソ連に島を占領され、故郷を追いやられたならば、故郷に戻ることにできない不安と悲しみ、辛さで押し潰されそうになるだろう。実際に住んでいた人たちも一日でも早く島を返して欲しいと思っただけでなく、返ってこなくてもいいと思う人なんて誰一

人いないことだろう。しかし、北方領土は今、ロシアによる開発が進んでおり、昔のような美しい自然は少しずつ姿を消していつか消えていく。これをみた元島民は一体何を感ずるのだろうか。現在、ロシア人島民の九割以上が日本への島の引き渡しに反対している。このままでは本当に北方領土が返ってこなくなるかもしれない。その為に私たち国民はより良い解決策を考えなければならぬ。今のところロシアとの話し合いは上手くいってはいない。何か良い方法はないのだろうか。私は考えた。しかし、私の固い頭では、そんなことは思いつかなかった。でも、解決するうえでやっつけたいことは分かっていた。島を求めて戦争をし、国や国民を傷つけてはならないということだ。

北方領土問題は先述の通り、第二次世界大戦がきっかけとなつて起こってしまった出来事だ。なのに、これを戦争で解決できる訳がない。そして、戦争はたくさん死傷者を出すことになってしまい、国と国との関係をさらに悪化させてしまう。戦争を起さずして島が返ってきて、元島民が島に喜んで戻っていくのだろうか。いや、そんな訳がない。荒れ果てた島を目の当たりにした島民は、嘆き悲しみ辛い思いをしてしまう。過ちは二度と繰り返してはならないのだ。今、北方領土を返してもらおう方法はないか。でも、北方領土をもっと知ること、何か良い解決策を思いつくのもいいかもしれない。人生で一度だけでもいいから、元島民の方の話を聞いてみたい。知らなかったことを知って、良い解決策を考えたい。そして、納沙布岬から青い海に浮かぶ歯舞群島を眺めてみたい。その景色からたくさんの方のことを学びたい。感じた。私は、これから日本国民の一員として北方領土問題について、深く考えようと思う。そのために北方領土を知ること、元島民の方の話を聞くなどの経験をする。この二つを心がけて少しでも日本の力になればと思う。いつの日か、「北方領土が返された」という嬉しいニュースを聞くために。

優秀賞（北方領土返還要求京都府民会議会長賞）

北方領土をもっと近くに

舞鶴市立城北中学校
三年 高尾 悠冬

あなたは北方領土の現状をよく知っているか。この単純な質問に「はい」と答えられない人が現在日本国民の八割以上を占めている。僕は同じ日本人が七十四年前、悲惨な目にあい、今も苦しんでいる状況を一人でも多く知ってほしい。いや、知らねばならないのだ。「北方領土」は北海道の東に位置する択捉島、国後等、色丹島、歯舞群島のことをいう。これらの島々は昭和二十年、第二次世界大戦終結後、日ソ中立条約を破って侵攻してきたソ連が占拠し、その状態は今も続く。侵攻当時、一部の島民は命からがら島から脱出し、残った人は捕虜として樺太の収容所で悲惨な暮らしを送った。

もし、自分の故郷が異国に奪われ、家族や友人が見知らぬ地へ連れていかれたらどうだろうか。僕なら、故郷を奪った国への憎しみでいつぱいになるだろう。そんな出来事が実際に日本で起こったのだ。

では、なぜ北方領土の現状をよく知らない人がここまで多いのか。理由はたくさんあると思うが、「他人事として考えている」ことが大きいのではないだろうか。実際に終戦から七十四年がたち、どうしても遠い昔のこととして考えてしまう。そして日本最北の地での出来事のため、距離的にも身近なものとして捉えにくいだろう。また、領土問題ということで「難しそう」や「政府が何とかしてくれ」などと、人任せにしてしまふ部分もある。

どうしたら北方領土に興味を持ってもらえるか。知

らない理由から逆算して考えてみると「身近なこと」として捉えるのが大切ではないだろうか。そのために三つの観点から北方領土を見てみよう。

一つ目は年月だ。ソ連の侵攻は七十四年前だが、今も領土問題は続いている。そのため、全国各地で返還の取り組みが行われている。また、実際にロシア人と交流することで友好関係を築こうとしている。そしてその集いや事業の多くが誰でも参加できるものだ。北方領土問題は遠い昔のことではないのだ。

二つ目は距離についてだ。大阪から歯舞群島の一つ、貝殻島までは約千八百km。七十四年前には最短で五十四時間かかっていたのが、十六時間で行ける。半日あればいつでも行けてしまうのだ。また、北方領土に最も近い根室市の納沙布岬から貝殻島までは、三、七kmという近さなのだ。

三つ目は資源だ。北方領土の周辺は海産物も豊富で、化石燃料も確認されている。戦前まではここを日本人が開拓し平和に住んでいた。もし北方領土が返還されれば、僕たちの暮らしが豊かになるのは間違いない。

このように、北方領土は僕たちの暮らしに直結する身近な存在なのだ。そしてこの問題を世界中からも身近に感じてほしい。ロシアと日本という大国同士が関わる問題は、他国に貿易でも軍事でも影響を及ぼしかねない。北方領土は日本国内だけでなく世界問題の一つなのだ。

昨年九月、日露首脳会談が行われた。過去何十回も会談が行われているが、大きな進展はない。このような状態に歯止めをかけ、政府を後押しするのは国民の「世論」なのだ。政府だけが問題を解決させようとしても無理がある。これからは僕たち若者が世の中を動かす世論をつくっていくのだ。日本だけでなく、世界を平和にしていくために。

優秀賞（北方領土返還要求京都府民会議会長賞）

北方領土返還と交流

京都市立桂川中学校
一年 島本 真衣

「北方領土ってなに。」

学校で先生から話を聞いた時に一番に思ったことでした。「北方領土」という語句は聞いたことはありませんが、自分には関係のないことだと思って、これまではあまり興味を持ちませんでした。

そして、帰宅してから母に何げなく「今日、学校で北方領土について学習した。」と話すと、母がインタネットに載っていたある記事を私に見せてくれました。その記事を読んでもみると、知らない間に日本とロシアとの間で、元々は北方領土の島々に住んでいたのにも関わらず、先祖の墓参りにも行きたくても行けないなどの深刻な問題があるのだと改めて知り、とても驚きました。「もしも今、住んでいる日本が他の国の領土となり、他の国や地域に移住しなければいけなくなったらば」、「自分の住んでいた家にビザがなかったら入ることができなくなったらば」と想像してみました。そしてこれまでの記憶の中にある習い事の帰りに母と一緒に色々な話をしながら歩いた道、友達と一緒にいたずらをして怒られたり、一緒にたくさん笑ったりしていた学校、家のベランダから眺めた近所の風景。今まで私を支え、築き上げてきた人生の歩みを根こそぎ全部奪われてしまうという恐怖心や悲しみや怒りが私の心の中に湧いてきました。私の読んだ記事の中には、北方領土に住むロシアの方の意見がありました。そこには、日本人と一緒に住んで

仲良く暮らしていけば良いのではないかとという声もありましたが、北方領土の返還についての聞き取り調査では住民のほとんどが返還に反対しているそうです。元島民と現住民がもっと交流を深め、より良い関係を築いていくことはとても重要なことだと思えます。しかし、二度と故郷に戻ることもなく、亡くなってしまう方たちの思いや悲しみは、それで解決することはできるのでしようか。

私にはそう思えません。現住民の人たちが北方領土を返還したくないと思うのは、自分の住んでいる島々に愛着があり、愛国心があるからではないでしょうか。しかしながら私たち日本人にも同じように自分の故郷を大切にしたいという気持ちがあると思えます。

私は今すぐに北方領土を返還するのは大変難しいことだと思いました。今後ロシアと日本との間で返還に向けた協議は続いていくとは思いますが、元島民の方たちが、もっと簡単にふるさとに足を運べるような方法を考えてほしいと思います。

そして、今後このような悲しい歴史が繰り返されないように願っています。これからは私も日本人の一人として、日本と世界との関わりについてもっと興味を持って学んでいきたいと思えます。

優秀賞（京都新聞賞）

私の主張

京丹波町立和知中学校
二年 向仲 柚季

北方領土問題で、日本が今求めているものは何か。四島返還か？しかし「二島だけでも」と言っている元島民の方々もいるようだ。それならば何か。

私がこの問題について考えるようになったのは、元島民の中で二つの意見があることを知ったことがきっかけだ。四島返還を願う人、「二島だけでも」と少しづつ島の返還を願う人。一見、思いが分かれているように思える。だが私は「もう一度この地に立ちたい」という気持ちには元島民全員が持っているのだと考えた。しかし、こう考えた時の自分は、島が返されることを願うことしかできていなかった。

七十四年の月日が経った今でも問題が解決されない。これには二つの理由があるのであるのではないかと考えた。

一つ目は、日本人にとってもロシア人にとっても「ふるさと」であるということだ。元々住んでいたのは日本人だ。だからといって今そこに住んでいるロシア人のふるさとを奪っていいのだろうか。こう考えると、より問題解決から遠のいていく感じがする。

だからこの問題を自分にとって、身近なものとして意識できるように、北方領土について調べた。すると二つ目の理由と思われる情報を見つけた。それは「歴史認識の違い」だ。日本人は「突然奪われた」と思っている。だがロシア人は「戦争に勝って手に入れた」としている。この歴史認識の違いにすごく驚いた。この違いをこのま

まにしておいていいのだろうか。整理しなおすべきなのではないか。それが問題解決の一步になると思う。

こんなふうに語っている自分だが、実は今まで北方領土について何も知らなかった。それはこの問題を他人事として、知ったり触れたりしようとしなかったからだ。だから長い間解決されていないことやたくさんの人々の気持ちに犠牲になっていることを知って、すごく残酷だと思った。それ以上に元島民の方々は、苦しく悲しい、そして怖い思いをされたのだろう。そして今もこの思いを持ちながら生活されているのかもしれない。それが一番つらいことだ。

このような人たちが苦しみから解放されるように、よりよい未来が来るように、そして北方領土問題が解決されるように、自分のこの小さな力でできることは何か。それは様々な機会に「四島返還をあきらめない」と主張することである。中学生の自分の力はすごく小さい。けれど、多くの人の力を合わせれば大きな力になる。だから元島民の方々、解決したいと思っている方々とともに全員で主張しようと思う。

北方領土問題に触れるきっかけとなったこの機会に、私はすごく感謝している。たくさんの方々のことを知った今では、この問題を忘れてはいけなさと強く思う。まだ間に合う。一步を踏み出してみよう。この問題に触れて気づいたあなたの意見が、解決への一步にきつとなる。

優秀賞（京都新聞賞）

北方領土の現在と未来を考える

京都市立嵯峨中学校
二年 河西 航

「工場新設、進むロシア化」「日本漫画『大好き』少女も」これは、今年の九月十六日の京都新聞に掲載された国後島と色丹島へのビザなし交流について書かれた記事の見出しだ。私は昨年北方領土作文を書いて北方領土に関する記事を切り抜くようにしていた。切り抜いた記事の中で最も心に残っていたのが、このビザなし交流についての記事である。

この記事には、二島では公共施設や工場の新設といった「ロシア化」が急ピッチで進み、実効支配が強まっているということや、二島の合計人口は約一万二千人で、本土よりも高い給料で若い人たちを呼び寄せ「若返り」を図っているということが書かれていた。私は、現在の北方領土には、戦前の日本人と同じくらいのロシア人が住んでいるという事実が驚き、今後北方領土の「ロシア化」が進むほどに北方領土の返還は難しくなるだろうと考えた。

また、この記事で特に印象的だったのは、国後島に住む十六歳の少女は日本の漫画が大好きで、将来はロシアと日本をつなぐ仕事に携わりたいと語っていたことだ。私は今までロシア人と交流したことが無いためロシア人には少し取っ付き難い印象があったが、私も漫画が大好きなのでその少女には親しみが持てた上、北方領土に住むロシア人が日本に対して好意的な印象を持つてくれていることは嬉しかった。

そして、妻が元島民二世という日本人男性が「今の島民にも幸せに暮らす権利がある。」と話していたことも心に響いた。北方領土が日本固有の領土であることは明らかで、元島民の方のためにも一刻も早い返還が望まれるが、現在幸せに暮らしているロシア人に島を去ってもらう、再び日本人が島で暮らすということは現実味に欠けると考えた。

このようなことから、私は北方領土で日本人とロシア人が互いを尊重し合いながら共生し、北方領土の資源を両国が分かち合うことが理想だと考える。北方領土がロシアに占拠されてから七十年以上が経過し、現在もロシア側が北方領土はロシアの主権下であると日本が認めない限り、交渉の前進は難しいと主張している以上、日本が多少なりとも歩み寄る必要があると考える。もちろん北方領土での共生には、多くの政治的・経済的な課題があるだろうが、高齢化が進む元島民や島民二世の方のためにも、平行線な議論ではなく有意義な交渉と北方領土問題の早期解決が必要であると考える。私の考えが正しいかどうかは自分自身でも分からないため、今後も北方領土に関するニュースに興味を持ち、考えを深めるとともに、日本人として北方領土問題に向き合い続けたい。

優秀賞（KBS京都賞）

とつても近くて遠い場所

京都府立洛北高等学校附属中学校

二年 只友 明德

学校で、北海道の納沙布岬から撮った北方領土の写真を見てとても驚いた。北方領土の齒舞群島が見えるではないか。こんなに近いところにあるのか。ロシアに占領されていることは知っていたため、とても遠いところにあるように思っていた。船ですぐにでも行けそうなのところにあるのに、見えない壁が遮っていた。

北方領土の問題が生じた理由は、ポツダム宣言の受諾と調印の間に期間が空いてしまったことだ。日本側は受諾した日が終戦という考え方に対して、ロシア側は調印されるまで戦争は続いているという考えであるため、その間に占領された北方領土の帰属が曖昧になってしまった。

そして元島民の方々の先祖の墓は北方領土にあるため、現在墓参りもできない方も大勢いる。生まれ故郷に帰りたいと思う人がいるのは当然のことである。さらに土地も広く、排他的経済水域も重要である。カニなどは乱獲により日本近海での漁獲量が減っているものもある。北方領土は様々な問題を抱えているのだ。

そこで私たち中学生には何ができるか。仮に今日本に返還されたとする。しかし択捉島などに住み続けるロシア人は多いと思う。彼らも昔の我々と同様に住んでいる地域から離れたくないはずだ。無理矢理追い出してしまつては、昔のロシアがやったことと同じ事になってしまう。北方領土をこれ以上対立の象徴にしてほしくない。

それでは私たち中学生には、具体的にどのようなことが考えられるであろうか。それはどちらの国の領土にもしない、中立地または共同管理地とすることである。お互いが一歩下がって協力するのだ。そのような場所は世界でも例を見ないが、だからこそ平和の象徴としての価値が北方領土にはあるのではないか。日本人でもロシア人でも国籍に関係なく暮らせる共同管理地になれば平和の象徴となるだろう。共同管理地とすることによってお互いにメリットがあるのではないか。日本は北洋の魚が捕れるようになる。魚介類消費量が世界有数の日本にとつて決して悪い話ではないはずだ。また今回の授業で、北方領土には病院などの施設が整つておらず、島民の方は大変であるとわかった。日本が医療サービスを提供することも可能ではないか。

今、多くの中学生がこの問題の解決策について考えているだろう。しかしこの問題は我々だけでなく、世界中の人に一緒になつて考えてもらいたい。これ以上悲しい思いをする人が出ないように。対立の象徴が平和の象徴に変わるように。

優秀賞（KBS京都賞）

北方領土問題のメリットとデメリット

京都市立下京中学校
二年 大槻 莉央

北方領土とは、択捉島、国後島、色丹島、齒舞群島のことです。北方領土は、これまで日本人々が開拓して受け継いできたもので、一度も外国の領土となつたことがありません。しかし、第二次世界大戦によって、この考え方は大きく変わったと思います。戦後は、ソビエト連邦によって占領されて、現在の状況に至っています。そして、日本側の返還要求に対して、ロシアは強硬な姿勢で臨んでいます。

そこで、北方領土を返還してもらえないとどういうことになるのかを考えてみました。それは、漁業についてです。漁業は、この問題に大きく関わっていると思います。私のおじいちゃんや、漁師をしています。漁師にとって漁場がどれだけ大切なものなのか、私には少しわかりません。北方領土が返還されず、漁場の範囲が狭くなることで、魚の獲れる量が減るのです。

戦前は、島の人々が協力して、漁業をしていただろうと思います。島には、水産資源を缶詰などにする加工工場が建てられていたと思います。そのような漁業の恵みは、北方領土を豊かな町にしていたはずで

一方、返還後、漁獲量の制限を無くすと、日本が多く獲ることになるので、それも問題になると思います。外国船も含めた乱獲の恐れも出てくるからです。

ところで、北方領土について、知らない人はとても多いと思います。私たちができることは、限られています。

このような作文を書くことで、世界の人たちが見たり、知ったりすることで、考え方は変わるかもしれない。また世界の人々を招くための観光スポットを作っても良いと思います。世界の人々に北方領土を知ってもらい、私たちの気持ちを広めることで、メリットも増えると思うし、その思いの広がりや強さが返還につながると思

ただし、インターネットで、北方領土の様子を見てみると、観光資源が、完全にあるとは言えませんでした。そのため、観光に来る人は、少ないと考えました。

また、返還後に、北方領土に住んでいた人たちが戻ってくるのも少ないと思います。戦前の島民は、高齢になつていと思うので、移り住むことができる人は限られるでしょう。他の日本人を、北方領土に移住してもらうことも考えられると思うけど、それもほぼ不可能だと思います。まだ北海道は、土地も広く、余っていると思うので、北海道で暮らそうとする人が、北方領土に移住すると思いません。

色々な問題も考えられますが、返還されたら争い事のないように平和になればいいと思います。

佳作

故郷への思い

京都市立開晴小中学校
七年 高田 千晴

「北方領土ってなに？」私がこの日本が抱える問題について知ったのは、まだ小学生のころだった。最初授業で習ったとき、「なんで領土を返してくれないのだろう。」や「ロシアという国も、住んでいる人も、きつと良くないことをしているにちがいない。」などと思っていた。

だが、こうして今考えてみると、「本当にロシアという国は、ひどい国なのだろうか。」と、考えが変わっていることに気が付いた。私がそう思うようになったのは、この二つがきっかけになったのだと思う。

一つ目は、最初に習ったロシアにあるシベリアだ。私は「シベリアはロシアにあるから、きつと良くないことばかりしているのでは。」と思った。だがそんなことはまったくなかった。寒い中でシベリアの人々は暮らして工夫をしたり、洗濯物が凍ってしまいうほど極寒の中で、笑顔でニコニコ笑って暮らす、すてきな国のように見えた。

二つ目は、「ビザなし交流」だ。ビザなし交流は、日本人が北方領土を訪れる訪問事業や、北方領土に住んでいるロシア人を日本の各都市に招待する受入事業の二つのことだ。この事業を行う理由は、日本人とロシア人がお互いの理解を深め、問題解決のための環境作りをするためらしい。

実際の写真を見てみると、こんな様子がとらえられて

いる。笑顔でロシアの人々をむかえる日本人。そしてその行為を受け入れるロシアの人々の表情。笑っていたり、日本の文化におどろいた様子。

本当なら敵対し憎しみ合っているはずが、両国の人々が互いを認め合い、互いのよさについて学び合う。そんなすばらしい光景に私のロシアの人々に対する思いが、一気にくずれ落ちていった。そしてロシアの人々の思いを考えてみる。そこが本来日本の領土だったとしても、そこで生まれ育った彼らにとってはそこが自分の我が家であり、故郷でもある大切な場所なのだ。そんな思いのつまった自分たちの居場所をうばわれたらどうなるのだろうか。そこで築き上げてきた文化や町なみがすべて失われる。「どこか他の場所で生きる」などといわれても、そこで育った人々は、今までの生活をすべて捨てなければならぬ。もし自分がそうなってしまうと考えると、不安でたまらなくなる。

私は今この瞬間ロシアについて、たしかに日本人が暮らしていた土地をとられ、そこで過ごしていた日本人のことを考えると、ロシアはひどいなどという考え方もある。だがロシアの人々だってそれは同じなのだ。たとえ領土を日本が取り戻したとしても、それは昔、自分たちがされた大切なものを失う気持ちを今のロシアの人々にぶつけるようなものなのだ。

だから、日本の人々もロシアの人々も、もつと交流が増えて、互いが認め合えるすばらしい解決方法ができればいいと私は思う。そのために自分たちができる小さなことをして、協力していきたいと思う。

佳作

ロシアの風景・日本の風景

京都市立下京中学校
二年 寺田 透子

私は、ロシアと日本が有効的な関係になることを望んでいます。早く北方領土問題が解決して、たくさんの人が美しい島々の風景を見られる日が来てほしいです。まずは、一つ一つの島について調べたことを紹介します。

歯舞群島は、現在、居住者は一人もおらず、ロシア国境警備隊が常駐しているのみです。そのため、戦後に日本人が引き上げてから自然はそのまま残っています。歯舞群島の一つである多楽島には、昔は日本人が住んでいました。小学校の運動会など、幸せな日常でありふれていました。

色丹島には、現在、ロシア人が居住していますが、自然はまだ多く残っています。色丹島のキリトウシ湾は、リゾート地のような美しい光景が広がっています。

国後島は、根室から四時間ほどで着くことができます。世界で最も美しいと言われている爺々岳が有名です。

最後は、択捉島。本来は日本の最北端です。火山の島でもあり、温泉が楽しめます。この島には、ラッキベツの滝があります。実は、日本一大きい滝です。この滝の写真を見て迫力を感じました。

このように4つの島は、自然であふれています。決して、氷で閉ざされたような場所ではありません。だから、この島々に一般の人が旅行することを禁止するのはもつ

たいたいと思いません。

北方領土は、今、ロシアに不法占拠されています。サンフランシスコ平和条約で日本は、千島列島に対する領土権を手放しました。しかし、北方領土は、その千島列島に入っていないません。このことは、米政府も明らかにしています。

私は、様々な世界地図を調べてみました。すると多くの地図では、日本とロシアの国境は、北海道と国後島の間になっていました。これは昭和二十五年発行の中学校の地図も同じです。

終戦後、七十四年以上が経ち、元島民の人々は、高齢となつています。自分が生まれ、育ち、思い出がいつぱい詰まった島なのに、今は自由に行き来することが不可能です。ふるさととは名前を変え、「北方領土」と呼ばれています。北方領土問題は複雑で、決して簡単に解決するものではありません。ですが、この自然にあふれた島々に自由に行くことができることを願ひ、元島民の人々の気持ちにも寄り添いたいと思ひます。

佳作

北方領土問題について

京都市立桂川中学校
一年 村上 透愛

私は授業で北方領土問題について学習するまで、その問題について詳しく知らなかった。もちろんテレビや新聞で度々報道されていたから言葉や語句は知っていたものの、外交問題だから日本にも落度があるのではないかとロシアと日本の仲が悪いからではないのかなど勝手なイメージを抱いていた。その中で、社会の授業で日本の領土の学習をして、北方領土・竹島・尖閣諸島の三つの領土および主権に関わることを学んだ。

北方領土はロシアが不法に占拠している状態であること、平成四年から「ビザなし交流」が行われていること、北方領土返還運動が活発に行われていることなどを知った。その中で一番私の心に残っているのは、ビザなし交流と北方領土返還運動が活発に行われていることだった。元々私はロシアと日本は仲が悪いという勝手なイメージを抱いていたので、ロシア人と日本人とが仲が良さそうに映っている写真や交流事業でロシア人が真剣に取り組んでいる姿やパスポートやビザもなしに上陸しているところには驚いた。そして、このまま友好と相互理解を深めていけば、北方領土問題を解決する日もそう遠くないのではないかと思った。

さらに、もう一つ心に残っていることは、北方領土返還運動が活発に行われていることだ。確かに一部の人が一人だけ動いても仕方ないし、もっと日本の国民一人一人がこの問題を正しく理解して、もっと関心を高め

ていくことが大切なんだと感じた。全国に都道府県民会議が結成されていること、二月・八月を「北方領土返還運動全国強調月間」としていること、二月七日が「北方領土の日」に定められたことなどを知った。私も大会やパネル展、署名活動などが行われていたら積極的に自分からどんどん参加していこうと思った。これからは、自分のできることを探し、行動へとうつしていきたい。

この北方領土問題について、私のように詳しく知らなかった人やまるで他人事のように思っている人がたくさんいる。少し前まで私もその一人だったが、授業で詳しく学習し、作文を書くにあたって色々知ったことで考え方が変わった。もっと詳しく知りたと思うようになった。まだまだ知らないことや見えていないことをインターネットや図書館などで調べて、周りの人たちにこの問題のことを教えられるようになりたい。そして北方領土や竹島の問題が解決できるように、私のできることを探し、行動していきたいと思った。

佳作

北方領土の日

京都市立嵯峨中学校
二年 大石 恵蔵

僕は、この作文を書くにあたり、北方領土についてインターネットで調べました。すると、「北方領土の日」というものがあることを知りました。

北方領土の日は、毎年二月七日です。この日は、「北方領土返還要求全国大会」が東京で開催される他、この日を中心に全国各地で講演会やパネル展、返還実現のための署名活動等様々な取組が行われます。

ここで僕はなぜこのような日が設定されたのかを不思議に思いました。これについて調べていくと、国民の北方領土問題への関心の低さの問題があるということがわかりました。そして、この問題を解決するために設定されたのが、この北方領土の日だったのでした。

このような日を作ることより多くの人に北方領土のことについて知ってもらえたり、興味や関心を持つてもらえたりすることができるとは、例えば、十一月十一日の「ポッキーの日」には、ポッキーの売り上げが約三倍になるそうです。このように、「何々の日」とつけることでより多くの人に知ってもらえるので北方領土に興味を持ってもらえるというわけです。

しかし、この日の認知度はまだまだ低いのが現状です。家族や友達に「北方領土の日を知っている？」と聞くと「知らない」と答えられるのがほとんどでした。だから僕はもっと北方領土の日をみんなに知ってもらえるようにするべきだと思います。

なぜかというところ、せつかく北方領土について考える良い機会だからもっと多くの人に考えてほしいと思っただけです。また、それによって北方領土返還運動が活発になつて北方領土にも大きな影響を与えることができるのではないかと思います。

それともう一つ大きな理由があります。それは北方領土に住んでいた人の平均年齢が高くなっているため、北方領土のことを次の世代へと受け継ぐことが難しくなつてきているということです。だから今の間に、次の世代へとこの問題を受け継ぐことが大切だと考えるからです。そのためにも北方領土の日は重要な役割を果たすと僕は思います。

このように北方領土の日は、北方領土返還に大きな影響を与えると僕は思います。だから日本の未来のために二月七日「北方領土の日」をもっともっと大切にしていきたいと思います。

佳作

「知る」こと

京都市立北野中学校
三年 谷口 陽菜

北方領土について、私たちはどれぐらい考えているだろうか。日本の国民で北方領土の現状を知らないと思える人は、男女三千人のうち四割を超えたそうだと答えた。私は日本人が北方領土に無関心であることが、北方領土返還を滞らせている一つの要因だと思う。だから私たちは、北方領土問題について個人個人がしっかりと向き合う必要があるのではないだろうか。

現在、日本では今まであった「四島返還」から「四島断念」を主張する意見も出てきている。歯舞群島と色丹島の二つの「二島返還」を指すというものだ。しかし、それはよくないと私は思う。なぜなら一九九三年の「東京宣言」では四島の名前を列挙し、「諸文書及び法と正義の原則を基礎」として、平和条約の早期締結を目指すと書かれているからだ。しかし、そのことを知っている人がどれくらいいるのだろうか。特に若い年代は他人事のような気持ちではないかと思う。何も知らないのに、北方領土は二島返還でよいと簡単に考えている人が増えていると思う。

そこで私は北方領土について知る人が一人でも増えるように、自分から日本とロシアについて、また北方領土について考えることにした。もともと北方領土とよばれる四つの島、択捉島、国後島、色丹島、歯舞群島は日本固有の領土だ。だが一九四五年、日本がポツダム宣言を受諾した後、ソ連は九月五日までに四島を不当に占拠

したので。元島民の方々の平均年齢は八十三歳を超えている。そういうことを知って北方領土問題は一刻も早く解決しないといけないと思つた。

北方領土返還は決してあきらめてはいけないことだ。しかし、ここでロシアの人々の視点で比べてみた。現在色丹島に住むロシア人は、色丹島に「住み続けたい」と思っているそうだと。私もそう思うことは当たり前のことだと思つた。しかし、日本の元島民の方々の思いも痛いほどわかる。平和に解決するためには一体どうすればいいのか。私はいろいろ考えてみて、日本人の元島民と現在のロシア人の島民のどちらも同じ思いを持っていると思つた。それは「故郷に戻りたい。住み続けたい」という気持ちだ。今の島民の人々も悪いことをしているわけではない。私はそう思つた。

私は、この作文を書いたうえで2つの「知る」が大事だと思つた。一つ目は、北方領土について関心を持たないといけないということだ。北方領土の歴史はもちろん、現状まで知ることが重要である。二つ目は、日本とロシアとの交流をもつことも大切だと思つた。お互いの気持ちを知ることが大切だ。この二つの「知る」は、北方領土問題解決の大きな前進につながるだろう。

北方領土問題について私が思うこと

南丹市立殿田中学校
二年 谷尾 芳子

「北方領土問題」について、みなさんは何を知っていますか。四つの島があり、ロシアとの領土問題になっているという事しか私は知りませんでした。学校でも詳しく勉強していませんでしたので、北方領土について、今後二つの国がどうしていきたくのかを調べました。

北方領土は元々日本の領土で、一七二九一人の日本人が生活をしていました。しかし第二次世界大戦後、ソ連が不法に占拠し始めました。そして四島を一方的に「編入」し、当時四島に住んでいたすべての日本人を強制退去させたのです。このようなことがあったから、日本は北方領土を返還してほしいと強く思っていることを知りました。

では、なぜロシアは北方領土を返還してくれないのでしょうか。それは四島の周りには多くの海洋資源があり、ロシアにとつても大切だからです。調べていくと、両国ともこの島を自分の国に帰属させたいということがわかりました。でもそんなことはできません。だから私は両国民の「混住する地」になればよいと思います。ロシアの人々の故郷も日本の元島民の故郷も同じ北方領土です。どちらかだけが故郷に行き来することができないなんて残酷すぎませんか。同じ故郷で育ったのならきつとうまくやっつけていけるはずですよ。

調べているときに知ったのですが、島を返還してもらうために一つやっっておかなければならないことがあります。

した。それはロシアと平和条約を結ぶことです。なぜなら、一九五六年の日ソ共同宣言では「歯舞群島及び色丹島を日本に引き渡すことに同意する。ただし日露の間で平和条約が締結された後に現実に引き渡されたものとする。」と明記されているからです。

日本とロシアの間には、まだ平和条約が結ばれていません。それは国民がこの問題をあまり重視していないからではないでしょうか。四島に住んでいたわけでもないし、自分には関係ないと思っている人も多くいると思います。実際、私もそのうちの一人でした。しかし北方領土について調べていくと返還してほしいと切に思う元島民の願いが見えてきました。今までは関係ないと思っていたけれど、そうではないんだなと思うようになりました。そしてこれから先、お互いが気持ちよく過ごすために私たちには何ができるのだろうかと考えました。

私はこの問題を解決につなげるために、多くの国民の返還してほしい！という気持ちが大切だと思います。みんながもっと北方領土問題を重視し、深く考えることができたなら、両国民が納得する方法で解決する日が来ると思います。その日まで私は考え続けたいと思います。

佳作

北方領土のあり方

亀岡市立亀岡川東学園
八年 川勝 陽葵

北方領土は日本固有の領土である。だから、私は北方領土には日本人だけが住むべきだと考えていた。

しかし、今そこにはロシア人だけが住んでいる。北方領土はロシアに占領されているのだ。それは約七十年間も続いているため、もちろん北方領土が故郷というロシア人もいる。だから北方領土をロシアから返してもらおうのは難しい。そうであれば日本人とロシア人が一緒に住めばいいと思う。そんな日本とロシアが共存できる北方領土にすれば、北方領土問題を解決できるのではないだろうか。

ソ連は第二次世界大戦後に、日本人の島民を強制退去させた。そして北方領土を占領した。そこに住んでいた日本人を勝手に追い出したということだ。自分の故郷であるところに急に住めなくなるといのは、どれほど悲しいことだろうか。もし私が、急に今住んでいるところから追い出されて住めなくなれば、悲しさや悔しさで耐えきれないだろう。元島民の方々はその状態が今も続いているのだ。それが現実である。

私は同じ日本人として、一刻も早くその方々に故郷へ帰ってもらいたい。しかしだからといって、ロシアから北方領土を奪い返すわけにはいかない。次は、今そこに住むロシア人が日本の元島民のようになってしまふ。だから北方領土を故郷とする日本人、ロシア人のどちらもが故郷で暮らすことのできる環境を作っていかななくては

ならない。私はそれが「共存」という北方領土のあり方だと考えている。

けれども、ただ日本人とロシア人が一緒に住めばいいというものではない。互いに納得し合いながら暮らすことができるための決まりが必要だと思う。まず水産物の漁獲量を平等にすること、そしてロシアの墓地を廃止して日本人が住んでもアメリカ軍の基地を作らないこと、これらの決まりが私は必要だと思う。

このように日本とロシアの両方の国民が満足できる「共存」という北方領土のあり方が一番いいと考える。日本の元島民の方々のために、私は自分の意見を伝えていきたい。そしてもし私の考えているようなことが実現できたら、ロシアと日本の関係がさらによいものになっていくだろう。最終的には、日本とロシアがEUのような関係になっていってほしい。私はこれから北方領土について学んだことを活かし、そこを共存できるように最善を尽くしていきたいと思う。

佳作

北方領土について

京都府立洛北高等学校附属中学校
二年 大西 花音

小学生の頃、ニュースで北方領土について特集が組まれているのを見たことがあります。その中のロシア人へのインタビュのコーナーで「北方領土は日本とロシア、どちらの国が持つべきだと思いますか。」という質問に対して「ロシアが持つべき。日本は今持っている土地で十分。」と答えている若いロシア人がいました。その時は特に何も思いませんでした。今回この作文を書くに当たって、北方領土のことを調べていくうちに、このインタビュを思い出して、いろいろなことを考えました。

北方領土はポツダム宣言受諾後、ソ連に侵攻され、現在も占領されています。当時の島民は金品も住んでいた家もソ連兵に奪われ、日本列島に強制送還された人もたくさんいたそうです。さらに日本には、北方領土をたくさんの方が探検・開発してきた歴史があります。北方領土についていろいろと調べていくうちに「元島民の方や島の開発に携わってきた人のためにも、北方領土は日本人が訪れることができる場所にすべきだ。」という思いが強まりました。それと同時に、他にも考えたことがあります。それは「ロシアの子どもも日本の子どもも、北方領土について知識が少なすぎるのではないか。」ということ。当時、一部の島民はソ連兵と交流があり、その人たちは危害を加えられなかったそうです。北方領土問題について、日本人がソ連に島を強引に奪われたというとしか聞いたことがなかった私にとって、この話

はとても意外でした。それと同じように、ロシアの子どもたちは、日本が北方領土を開発してきたことや元島民の日本人が今も故郷に帰るのを許されていないことなどを知らないのではないのでしょうか。インタビュを受けていた人も、もしそれらのことを知っていたら、また違う考えを持つていただろうと思います。

「お互いが北方領土に関して、自分たちのことだけでなく、相手のことも考える。」これが、今私たちがすべきことだと考えます。

北方領土がソ連に占領されてから、すでに七十年以上が経ち、当時の島のことをよく知る元島民の方々は年々減ってきています。その中で北方領土について自分の国のことだけでなく、相手の国のことを知る必要性は、さらに増していくと思います。実際話し合うのは政治家でも、国民がたくさん知識を持つことで話し合いの進捗や結果は変わってくるのではないのでしょうか。

そして、元島民の方々が早く島を訪れることができるよう、北方領土問題の早期解決を目指して、国民全員がもっと関心を持たなければいけないと思いました。

佳作

領土と国と私たち

京都府立須知高等学校
一年 山崎美緋歌

私は中学生のとき、なぜ北方領土問題は解決しないのかについて論じた。それは、日本とロシアの二国ともが北方領土に固執しているからだという結論に至った。そこで、新たに疑問が生じた。なぜ二国ともが北方領土に固執するのだろうか。

まずは、日本とロシアの領土についての歴史的背景を見てみる。

一八五五年、日魯通好条約を締結、ロシアとの国境が択捉島と得撫島との間とされた。また、樺太は両国民雑居の地とした。一八七五年、樺太千島交換条約では、樺太をロシアの、千島列島を日本の領土とした。一九〇五年、日露戦争後に締結されたポーツマス条約で、北緯五十度以南の樺太が日本領となった。一九五一年、日本は第二次世界大戦後の講和条約、サンフランシスコ平和条約に調印した。そこで千島列島と南樺太の権利を放棄した。北方領土は千島列島に含まれないと主張したが、ソ連は条約に調印しなかった。一九五五年、ソ連が歯舞・色丹の二島譲渡を提案、対して日本は四島返還を要求し、交渉は暗礁に乗り上げた。翌年に国交回復に関する日ソ共同宣言発表され、平和条約締結後に歯舞・色丹の二島を引き渡すことが明記された。しかしその後、ソ連は領土問題は存在しないとの立場に立ち、冷戦崩壊後、ロシアとなった今も、平和条約は締結されていない。

このように、現代に至るまで日本とロシアの領土問題

は変遷を続けている。しかし、戦後の北方領土問題について、互いの主張が一致せず、解決のめどが立っていない。ロシアとしては、海洋資源や緩衝地帯として手元に置いておきたく、日本としても、同じく海洋資源は大切である。四島返還にこだわる理由として、国後島や択捉島の面積が広く、大勢の日本人が居住していたこともあり、また、「そもそも日本固有の領土である」と宣言しており、途中で取り下げるわけにはいかないという日本政府の立場もある。

しかし、両者ともに自国の主張を譲らないままでは解決は不可能である。互いに「妥協点」を見つける必要がある。これは、学校生活などの集団生活においても起り得ることだ。例えば、何かしらの物事を決めるときに多数決をとるが、そのときに少数意見の人は少なからず妥協をしている。だからと言って、少数意見をないものとしてはいけないので、意見を取り入れ、双方が納得できる「妥協点」を見つけ、解決していかなければならない。

これは、世界レベルになっても同じことが言える。北方領土問題も、じっくり話し合い、両国民の意見をしっかり聞いてほしい。例えば、海洋資源だったら、漁獲量を設定し互いの国を平等に扱うことや、北方領土で文化交流することなど、双方が納得できるように解決すべきである。

私は、一日でも早く、互いが納得する解決策を出し、島民や元島民の人が笑顔で暮らせるようになってほしい。そのために、国民全体で北方領土について目を向けたい。

佳作

二月七日って何の日？

宮津市立宮津中学校
二年 八木 遥史

今の中学生に「二月七日って何の日？」と聞き「北方領土の日」と答えられる人は少ないだろう。この日は日本とロシアが日魯通交条約を結んだ日である。正直、作文を書く機会がなかったら、この先ずっと知らなかったかもしれない。

はじめ私はどうして北方領土について調べなければならぬのかと考えた。なぜなら北方領土は北海道の北東の方にあり、僕たちの住んでいるところは京都だからだ。北方領土問題なんて縁もない話だ。けれども学んだことはたくさんあった。北方領土は温泉も多く、自然が豊か。また豊かな漁場として有名であることも知った。

私はこの経験から北方領土についてもっと知るべきだと考えた。はじめは誰でも自分とは無関係であると思ってしまう。しかし少しでもこの問題について考えられるような様々な取組なども行なってほしい。例えば北方領土問題を授業の一環として行うのもよいと思う。またその地元の人のお話を聞いたりして学ぶのもよいだろう。そうなれば、一人ひとりに知識や考える力も身につけて学力の向上につながると思う。

私自身、今回の作文を通して北方領土問題について興味を持つことができた。それを様々なことにつなげたい。そもそも北方領土問題は、日本人だけが抱える問題ではない。日本人とロシア人が抱える問題だ。日本とロシアがよい交流を続けていくことが大切だと考えた。また

どちらかの国の勝手な考えで決めるのではなく、両国が話し合い、納得のいくやり方を徐々に見つけ出すことがよいと考えた。

これからもいろいろな取組が活発に行われ、解決に向けて進んでほしい。もし実現するのならば、北方領土は平等で尊重できる交流の場となってほしい。そしてそれが実現できるような世の中を作っていくことが大切だと感じた。

第14回「北方領土と私たち」作文コンクール入賞作文集

令和2年（2020年）2月8日

編集・発行 北方領土返還要求京都府民会議
〒602-8570 京都市上京区下立売通新町西入藪ノ内町
京都府広報課内

京都府北方領土教育者会議
〒629-1116 京都府船井郡京丹波町市場丸ヶ野4
京丹波町立和知中学校内

印 刷 株式会社 田中プリント
〒600-8047 京都市下京区松原通麩屋町東入
石不動之町677-2